様式第２号

視察研修先	山口県美祢市議会	氏名	木村　寿太郎
視察研修項目	美祢魅力発掘隊の取り組みについて		

美祢市は、山口県西部のほぼ中心に位置し、東は山口市、西は下関市、南は、宇部市、山陽小野田市、北は長門市、萩市に接している。面積の7割以上が山に占められており、傾斜地の多い典型的な中山間地で、本市に似ている地区である。

また、日本最大級のカルスト台地「秋吉台」や、東洋屈指の大鍾乳洞「秋芳洞」など豊かな自然環境や観光資源があり、年間を通じて多くの観光客が訪れている。主要産業は農業・観光・鉱業である。

テーマである「地域おこし隊」とは、人口減少や高齢化などの進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的な受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その定住・定着を図ることで、意欲ある地域住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を進めることを目的にした制度である。2009年から始り、当時は30市町村に隊員が89名からスタートしたのが、2018年には1,050の地区に、5,359名もの隊員が活躍している。それだけ成果が上がっている確証と思う。

美祢市には2016年3月より、花岡秀直さんが美祢市美東町赤郷地区に赴任され、3年間「美祢魅力発掘隊員・一部は地域支援隊」として本当に誠心誠意尽くされた計画や成果を1時間以上にわたり、自分の思いも含んだすばらし行動力の発表会でした。

これだけ地域の方々と熱く語り合い、「赤郷地区小学校振興会」「赤郷コミュニティバス運行協議会」などを組織化し、地域の現状を十分に把握し、理解した支援隊は、全国でも珍しいのではないかと評判であるとのこと。

普通であれば、地域・環境・考え方の違いがあれば、いろいろな衝突やトラブルがあるのが当り前であるが、それもいろいろ議論しながら解決してきたという。3月の閉校式は地区の皆様と合同で企画立案し、「思い出に残るフィナーレ」で達成感のある事業でしたと語っておりました。

一人で語った、ワンマンショーステージのようでした。ぜひ、寒河江市の支援隊の報告も期待したいものである。

様式第２号

視察研修先	山口県山陽小野田市議会	氏名	木村　寿太郎
視察研修項目	豪雨災害対策について		

山陽小野田市は山口県の南西部に位置しており南は宇部市、西は下関市、北は美祢市に接している。平成１７年に隣町の山陽町と合併した比較的新しい市である。小野田地区は明治１４年に日本初の民間セメント会社である「小野田セメント」などが操業を開始し、とくに江戸時代から始めた石炭産業と共に古くから工業の町として全国区である。

視察のテーマである、豪雨災害対策であるが、災害が発生しやすい地域であり、当市の自然現象は下記のようになっている。

（１）川や海が近く、洪水・高潮・津波等が起こりやすい

（２）地盤が低いので浸水害が発生しやすい

（３）山や崖が近く、土砂災害がある

（４）地盤が弱いので地震による被害が多い

以上のような災害が発生すしやすい要件がかさなっている。

近年の当市の災害は、平成３年の台風１９号・平成１１年の台風１８号・平２１年の豪雨災害・平成３０年の豪雨災害と近年は台風を巻き込んだ、被害が集中する事例が多く見受けられる。

そのためにも、いつも災害時における要配慮者の避難生活場所については、身体の状況等の変化に応じて在宅や指定避難所から福祉避難所へ、また、介護施設などへの緊急入所・入院などを図るなど、適切に対応する必要があり、この「福祉避難所開設・運営マニュアル」を作成することになったとのことである。まだ全国的に、この制度は珍しく、また当市としては６月に施行されたばかりで、結果は出ていないが、将来的には災害の多い地区にとっては、必要不可欠になって来ると自負しておりました。

その他に、自主防災組織はもちろん100％を目指すが、どこも同じでしょうが戸数の少ない10人以下の地区での達成率が難しいとのことです。防災無線やラジオに関しては、市の職員が平均月1回くらいの点検や試運転を行っているとのことでした。また最近はペットの避難所が必要ではないかなどの要望が出ているようです。

それぞれ地区や環境によって、状況が大きく変化するものと感じてまいりました。

様式第２号

視察研修先	山口県下関市議会（下関市消防局）	氏名	木村　寿太郎
視察研修項目	消防団への入団促進の取り組みについて		

下関市は本州の最西端に接し、三方を海に開かれると共に天然の良港を有するという地理的条件にも恵まれ、九州あるいは大陸への玄関口として、古くから内外交通の要衝として栄えた。平成17年2月旧下関と旧豊浦郡4町の対等合併により、人口も27万人に膨れ上がり新たな下関市が誕生した。

昭和45年6月の関釜フェリー（下関一釜山）の就航は大きなアピールであったが、今回の日韓関係の悪化等により、フェリーによるお互いの観光客の激減は、経済的に大きな痛手であると話しておりました。

視察項目は「消防団への入団促進の取り組みについて」であるが、人口が264,000人位の団員数が定員1,977人に対し、実員1,845人（その内女性が68人・市職員が140人と充足率が93.3％）である。単純に比較はできないが、本市は96.75％である。団員の平均年齢がだんだん高くなっており、高齢化がどんどん進んでいることは間違いない。これでは団員の確保も思わしくなく、5地区に分かれているが、ある地区においては、新入団の加入がないと本人がなかなか辞められなくなっている地域も出てきている。

全国的な悩みでしょうが、下関市でも、平成28年度あたりから、団員の減少がみられ、消防庁から全額国費で賄える「女性や若者をはじめとした消防団加入促進支援事業」に関する提案募集があり、消防団をＰＲするＣＭを作成し、県内の民間放送局で放送する内容で応募したところ採択されたり、同じ年に行った、「学生消防団活動認証制度」などの補助を受け、地元の水産大学に在学中の地元でない学生さんに優遇制度を設けたり、女性消防団員の活動ＣＭでＰＲ活動を行ったり、消防団協力事業所表示制度や消防団員優遇措置など、なかなか結果が出てこないのが現状であるとおっしゃっていました。